

「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」
第8条の規定による民間事業者の客観的な評価の公表

稚内市告示第101号

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)第7条第1項の規定により、稚内市廃棄物最終処分場整備運営事業を実施する民間事業者を選定したので、同法第8条の規定により行った客観的な評価の結果をここに公表する。

平成16年11月29日

稚内市長 横田 耕一

1 特定事業の名称及び場所

- (1) 特定事業の名称 稚内市廃棄物最終処分場整備運営事業
- (2) 特定事業の場所 稚内市新光町1788番地、1789番地

2 特定事業の概要

本事業は、稚内市(以下「市」という。)の一般廃棄物及び合わせて産業廃棄物の適正な処分を行うため、市内に一般廃棄物最終処分場(以下「施設」という。)を新設し運営を行うことを目的とする。

PFI法に基づき、事業者が市内に新たに施設を設計・建設し、市へ施設の所有権を移転した後、一般廃棄物等を受入れ、施設を運営・維持管理することを事業の範囲とする。

埋立地面積：28,700m²(市の基本設計における想定値)

廃棄物埋立容量：約189,000m³(覆土分は含まない。)

事業方式：BTO方式

事業期間：平成17年3月から平成29年10月までの14年6ヶ月

業務内容： 施設の設計
施設の建設工事
施設の所有権移転業務
施設の運営・維持管理
廃止に係る施設の管理業務

3 事業者の選定方法

事業者の募集及び選定は、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の10の2の規定に基づく、価格及びその他の条件により評価を行う総合評価一般競争入札方式により実施した。

4 事業者選定までの経過

時 期	内 容
平成 16 年 7 月 26 日(月)	入札公告及び入札説明書等の配布
平成 16 年 7 月 26 日(月) ～平成 16 年 8 月 10 日(火)	参考資料の閲覧及び貸出
平成 16 年 7 月 28 日(水)	入札説明書等に関する説明会及び現地見学会
平成 16 年 7 月 30 日(金) ～平成 16 年 8 月 5 日(木)	入札説明書等に関する第 1 回質問受付
平成 16 年 8 月 19 日(木)	入札説明書等に関する第 1 回質問に対する回答
平成 16 年 8 月 26 日(木)	参加表明書等の受付
平成 16 年 8 月 26 日(木) ～平成 16 年 8 月 31 日(火)	入札説明書等に関する第 2 回質問受付
平成 16 年 9 月 2 日(木)	参加資格審査結果の通知
平成 16 年 9 月 14 日(火)	入札説明書等に関する第 2 回質問に対する回答
平成 16 年 10 月 29 日(金)	入札及び提案書の受付
平成 16 年 11 月 26 日(金)	落札者の決定

5 審査委員会の設置

市は、事業者選定の審査を所掌させるため、学識経験者及び市の職員で構成する「稚内市 P F I 事業審査委員会」（以下「審査委員会」という。）を設置した。審査委員会は、次の 5 名で構成されている。

審査委員会委員は次の 5 名で構成されている。

審査委員長 宮 脇 淳（北海道大学大学院法学研究科教授）
委員長代行 田 中 信 壽（北海道大学大学院工学研究科教授）
審査委員 佐々木 政 憲（稚内北星学園大学情報メディア学部教授）
審査委員 川 上 憲 雄（市助役）
審査委員 手 島 孝 通（市生活福祉部長）

敬称略

6 審査の方法

（ 1 ）入札参加資格の確認審査（以下「参加資格審査」という。）

平成16年8月26日に、9事業者（グループ）から参加表明書及び参加資格審査申請書類の提出があった。各グループの構成員は、別表に示すとおりであり、市は、審査の結果9グループいずれも入札説明書に規定する、入札参加者の備えるべき条件を満たしていることを確認した。

別表

入札参加表明グループ一覧

(提出順)

1 東亜建設工業グループ	
代表企業	東亜建設工業(株)
設計企業	国際航業(株)
建設企業	東亜建設工業(株)
	岩田建設(株)
	坂本建設(株) 稚内支店
栗田工業(株)	
運営企業	(株)クリタス

2 地崎工業グループ	
代表企業	(株)地崎工業
設計企業	(株)地崎工業
	佐藤工業(株) 札幌支店
建設企業	(株)地崎工業
	佐藤工業(株) 札幌支店
	日立プラント建設(株) 北海道支店
	(株)富田組
運営企業	空知興産(株)

3 飛鳥建設株式会社グループ	
代表企業	飛鳥建設(株)
設計企業	飛鳥建設(株)
	日立造船(株)
建設企業	飛鳥建設(株)
	日立造船(株)
	(株)石山組
	北成建設(株)
運営企業	日立造船(株)

4 株式会社タクマグループ	
代表企業	(株)タクマ
設計企業	(株)タクマ
	(株)竹中土木
建設企業	(株)タクマ
	(株)竹中土木
	(株)共成建設
運営企業	(株)タクマテクノス
	(株)タクマテクノス北海道

5 鹿島建設グループ	
代表企業	鹿島建設(株)
設計企業	(株)ドーコン
	(株)虎ノ門コンサルタンツ
建設企業	鹿島建設(株)
	藤建設(株)
	(株)神鋼環境ソリューション
	(株)クボタ
運営企業	クボタ環境サービス(株)
その他企業	北電興業(株)

6 大成建設グループ	
代表企業	大成建設(株) 札幌支店
設計企業	大成建設(株) 札幌支店
	伊藤組土建(株)
	(株)荏原製作所 北海道支店
建設企業	大成建設(株) 札幌支店
	伊藤組土建(株)
	(株)荏原製作所 北海道支店
	(株)中田組
運営企業	(株)荏原製作所

7 アタカ工業グループ	
代表企業	アタカ工業(株)
設計企業	(株)環境工学コンサルタント
建設企業	アタカ工業(株)
	戸田建設(株)
	(株)ササキ
運営企業	アタカメンテナンス(株)

8 大林組グループ	
代表企業	(株)大林組 札幌支店
設計企業	(株)開発工営社
建設企業	(株)大林組 札幌支店
	石塚建設興業(株)
運営企業	環境衛生工業(株)

9 JFEエンジニアリンググループ	
代表企業	JFEエンジニアリング(株)
設計企業	(株)ホクスイ設計コンサル
建設企業	JFEエンジニアリング(株)
	日本国土開発(株)
	(株)田畑組
運営企業	テスコ(株)

(2) 最優秀提案の選定

1) 入札価格の確認

市は、入札書類に記載された入札価格が、予定価格を超えていないことを確認した。各グループの入札価格は次に示すとおりである。

グループ名	入札価格(単位:千円)
東亜建設工業グループ	2,498,965
地崎工業グループ	2,791,781
飛島建設株式会社グループ	2,275,798
株式会社タクマグループ	2,680,800
鹿島建設グループ	2,847,832
大成建設グループ	2,469,122
アタカ工業グループ	2,213,000
大林組グループ	2,675,808
JFEエンジニアリンググループ	2,748,258

2) 提案内容の基礎審査

市は提案書に記載された内容について、あらかじめ公表した落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認した。

3) 提案内容の定量化審査

審査委員会は、提案書に記載された内容について、落札者決定基準に示す得点化基準に従って、配点表に基づき得点化し、得点の合計が最も高い大林組グループの提案を最優秀提案として選定した。

審査委員会における定量化審査の結果は、別紙1に示す。あわせて審査講評を別紙2に示す。

7 落札者の決定

市は、審査委員会で選定した最優秀提案を踏まえ、平成16年11月26日に大林組グループを落札者として決定した。

<大林組グループ>

代表企業	(株)大林組 札幌支店
設計企業	(株)開発工営社
建設企業	(株)大林組 札幌支店
	石塚建設興業(株)
運営企業	環境衛生工業(株)

8 P F I 事業者の事業計画に基づく財政支出の削減効果

落札者の入札価格に基づき、本事業を P F I 事業として実施する場合の市の財政支出と、市が直接事業を実施する場合の財政支出の比較を行った結果、現在価値換算で 17% の削減が見込まれるとともに、落札者の優れた提案により、事業期間を通じて良質な公共サービスを提供することが期待できる。

財政支出の削減効果（現在価値換算値：基準年 = 平成16年度）

従来方式における稚内市財政支出	16.17 億円
P F I 方式における稚内市財政支出	13.42 億円
P F I 方式の導入による財政支出の削減効果（ - ）	2.75億円 (17.0%)

注) については、平成16年7月6日付で公表した特定事業の選定における前提条件から算出した。は、との比較条件を一致するために、事業者の入札金額に対し、国庫補助金、交付税収入、事業者からの市税収入を控除するとともに、市の直接支出額（モニタリング費用）を加算した金額である。

総合評価審査結果

審査項目(配点)		東亜建設 工業 グループ	地崎工業 グループ	飛鳥建設 株式会社 グループ	株式会社 タクマ グループ	鹿島建設 グループ	大成建設 グループ	アタカ工業 グループ	大林組 グループ	JFEエンジ ニアリング グループ
設計・ 建設業務に 関する事項	1) 早期安定化対策(7点)	3.50	5.25	5.25	3.50	5.25	3.50	5.25	3.50	5.25
	2) 浸出水処理対策(6点)	4.50	4.50	3.00	3.00	4.50	3.00	3.00	4.50	4.50
	3) シャ水対策(7点)	3.50	5.25	5.25	5.25	5.25	7.00	3.50	7.00	5.25
	4) 環境対策(5点)	3.75	3.75	3.75	5.00	5.00	5.00	3.75	5.00	5.00
	5) 施工計画(5点)	2.50	2.50	2.50	2.50	3.75	1.25	2.50	3.75	2.50
	小計(30点)	17.75	21.25	19.75	19.25	23.75	19.75	18.00	23.75	22.50
運営・ 維持管理 業務及び 施設に 関する 事項	1) 埋立計画(7点)	5.25	5.25	5.25	7.00	7.00	7.00	5.25	7.00	3.50
	2) 環境対策(5点)	3.75	3.75	2.50	3.75	5.00	2.50	2.50	3.75	3.75
	3) 施設管理(5点)	2.50	3.75	5.00	3.75	5.00	2.50	2.50	5.00	3.75
	小計(17点)	11.50	12.75	12.75	14.50	17.00	12.00	10.25	15.75	11.00
事業 計画に 関する 事項	1) 資金調達の確実性(2点)	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
	2) 長期収支計画の安定性(2点)	0.50	1.00	1.00	1.50	1.50	1.00	1.00	1.50	1.00
	3) リスク管理方針(6点)	1.50	3.00	3.00	3.00	4.50	3.00	3.00	3.00	4.50
	4) 地域社会への貢献(3点)	2.25	3.00	2.25	3.00	3.00	2.25	2.25	3.00	3.00
	小計(13点)	6.25	9.00	8.25	9.50	11.00	8.25	8.25	9.50	10.50
中計(60点)	35.50	43.00	40.75	43.25	51.75	40.00	36.50	49.00	44.00	
入札価格に関する事項(40点)	34.40	29.20	37.50	30.30	28.30	35.20	40.00	31.60	29.60	
得点合計	69.90	72.20	78.25	73.55	80.05	75.20	76.50	80.60	73.60	
順位	9	8	3	7	2	5	4	1	6	

稚内市PFI事業審査委員会委員長審査講評

本事業は、稚内市が初めて取り組むPFI事業であり、最終処分場を対象としたPFI事業では、道内の「留辺蘂町外2町一般廃棄物最終処分場整備及び運営事業」、静岡県長泉町の「長泉町一般廃棄物最終処分場（仮称）の整備・運営事業」に続き、わが国で3件目の事業である。これらの先行案件と同様に、本事業でも多くの企業からの関心を受け、最終的には9グループから提案書を受けた。

これらの入札参加者に対しては、審査にあたっての最低限必要な書類とはいえ、多大な様式からなる提案書提出要請に応じていただき、誠に感謝する次第である。

さらに、各提案とも独自の創意工夫により、技術面及び価格面双方において、高いレベルでの競争が行われたものであることを認識しており、各位の工夫及び努力に対し、重ねて感謝する。

稚内市PFI事業審査委員会が実施する定量化審査においては、それぞれの評価項目において、全会一致に至るまで継続協議することを原則として、予め公表した落札者決定基準に基づき慎重な審査を行った。その結果、大林組グループによる提案を最優秀提案として選定した。

大林組グループによる提案は、「覆蓋型最終処分場により優れた環境対策が可能であること」、「移動式破砕機設置により減容化を図ること」、「多くの具体的な地域貢献策が提案されていること」などが特長といえるが、その他の項目においても質の高い優れた提案がなされており、良質な公共サービスが安定的かつ継続的に提供されるに、ふさわしい提案と判断した。

今後、市の落札者決定を経て事業契約を締結のうえ事業を実施していくこととなるが、大林組グループに対しては、公共サービスのさらなる向上のため、以下の諸点に努めるよう本審査委員会として期待したい。

良好な官民パートナーシップの形成について、市とともに努力すること。

施設見学时等において市民との接点が多く想定されるため、公共サービスを提供する主体として、ふさわしい姿勢を堅持すること。

長期の事業期間を通じて、各種品質の保持、向上に努めること。特に、覆蓋型最終処分場に伴う臭気管理、作業環境管理、埋立地安定化に関する管理、処分場廃止に至る管理手順等への配慮に努めること。

地域再生、地域経済活性化について、具体的な提案が行われているが、尚一層の配慮を行うこと。

平成16年11月24日

稚内市PFI事業審査委員会
委員長 宮脇 淳